

## 第1章 「奈良市 21 健康づくり」の最終評価にあたって

### 1. 「奈良市 21 健康づくり」について

#### <策定の背景>

わが国では、急速な人口の高齢化や生活習慣の変化により、疾病構造が変化し、疾病全体に占めるがん、虚血性心疾患、脳血管疾患、糖尿病の生活習慣病の割合が増加しています。こうした疾病構造の変化に対応し、全ての国民が健やかで心豊かに生活できる活力ある社会とするために、平成 12 年に生活習慣病やその原因となる生活習慣の改善等に関する課題について目標等を選定し、国民が主体的に取り組める新たな国民健康づくり運動として「21 世紀の国民健康づくり運動（健康日本 21）」が策定されました。また平成 13 年からは、次世代を健やかに産み育てることをめざす、21 世紀の母子保健の主要な取り組みである「健やか親子 21」も国民運動として推進されています。

これらの国の動きを受け本市では、国が示す「健康日本 21」「健やか親子 21」の両方の理念を踏まえた「奈良市 21 健康づくり」計画を平成 16 年 3 月に策定しました。

#### <計画の目的>

この計画は、市民が健康に暮らせるために、妊娠期から高齢期まで生涯を通じた健康づくりをめざし、生活の質の向上、健康寿命の延伸、壮年期死亡の減少、次世代の健やかな育成を目的としています。

また、市民の主体的な健康づくり運動を関係機関と連携し、ヘルスプロモーションの理念に基づいて社会全体で支援をすることとしています。



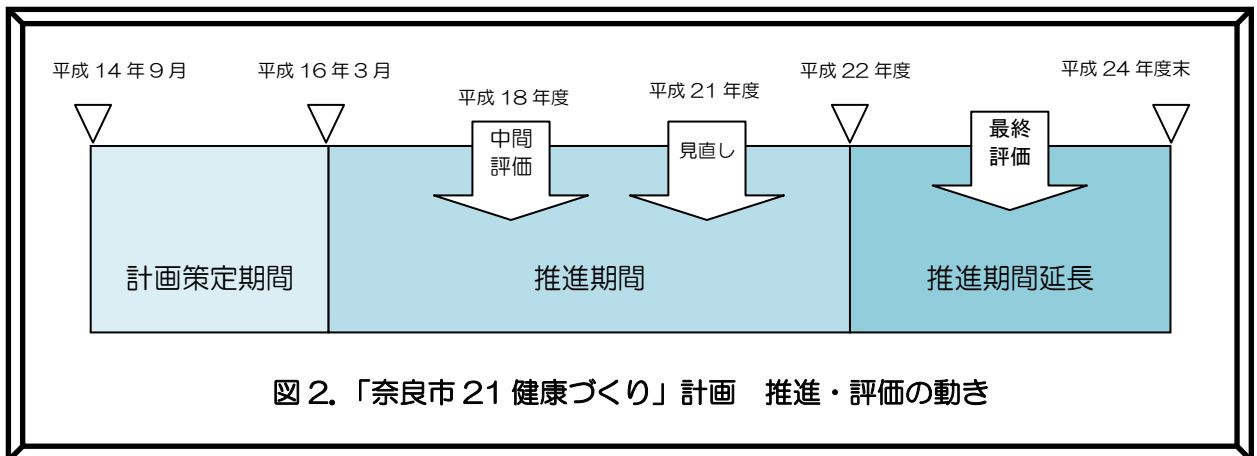
図1. ヘルスプロモーションのイメージ

### ＜計画の位置づけ＞

奈良市第 4 次総合計画を上位計画とし、本市が策定したその他の関連計画の内容を踏まえながら、健康づくり分野の計画と位置づけて策定しました。また、この計画は「健康日本 21」「健やか親子 21」の地方計画として、妊娠期から高齢期までを対象とした生涯を通じた健康づくりをめざし、9 つの領域を設定し、ライフステージごとに課題をかけた、推進に取り組みました。

### <計画推進の経過と期間>

平成16年3月に策定し、平成18年度に中間評価を行いました。中間評価の結果、中高年の男性の約3人に1人、女性の約5人に1人が肥満であり、生活習慣病を予防するためには肥満を改善することが大切であることから、重点目標を「肥満の人を減らす」「生活習慣病になる人を減らす」とし、重点領域を乳幼児期の「生活リズム」領域、壮中年期の「運動」「栄養・食生活」領域にしぼり、取り組みました。全ライフステージを通じては「喫煙」「歯の健康」領域を推進しました。平成21年度には国が計画期間を2年延長したことにより、本計画の推進期間を平成24年度までに変更し、健康日本21の目標項目追加、医療制度改革に伴う健診制度の変更、本計画推進における目標値の達成等により指標および目標値等見直しを行いました。



## 2. 最終評価について

### <評価方法>

計画策定時、各領域で健康指標、行動目標の指標、取り組みの指標について目標値を設定しています。計画策定時のベースライン値と、平成 22 年を最終値を比較し、目標の達成度を 4 段階で評価しました。

また、関係機関が連携しながら行ってきた取り組みについてアンケート調査を行い、取り組み状況をまとめました。

これらの結果を、関係団体や健康ボランティアなどで構成される「奈良市 21 健康づくり」推進評価委員会で検討し、最終評価報告書を作成しました。

表 2 「奈良市 21 健康づくり」判定区分

評価	判定基準
◎	現状値が目標に達成している。
○	現状値が目標達成にむけて改善している。(50～100%改善)
△	現状値が目標達成にむけて改善している。(1～49%改善)
×	現状値が横ばいもしくは悪化している。(0 以下)

※判定区分 4 段階の計算方法

$$\frac{〔最終値〕 - 〔ベースライン値〕}{〔目標値〕 - 〔ベースライン値}} \times 100$$